

【岐阜】肺がん患者も編集に参加、Q&A方式の肺がんガイドブック第2版を作成-澤祥幸・岐阜市民病院がん診療局長に聞く◆Vol.1

2022年1月21日 (金)配信 m3.com地域版

2021年11月、日本肺癌学会から『患者さんのための肺がんガイドブック』第2版が発行された。ベテランから若手までの医師・医療従事者が執筆に関わったほか、患者の会代表2人が編集に参加している。同書の作成委員長を務めた岐阜市民病院がん診療局長（がんセンター長）の澤祥幸氏に制作の背景について聞いた。（2022年1月7日インタビュー、計2回連載の1回目）

▼第2回はこちら（近日公開）



出版に携わった澤祥幸氏（左）と薬剤部の大澤友裕氏

——作成委員長として携わった『患者さんのための肺がんガイドブック』について教えてください。

肺がんに関する最新かつ公正な情報を詰め込んだ『患者さんのための肺がんガイドブック』第2版を、2021年11月に日本肺癌学会から出版しました。

弦間昭彦氏が理事長を務める特定非営利活動法人日本肺癌学会は、医師向けの「肺癌診療ガイドライン」を定期的に改訂、発行しています。一方で、患者向けのガイドブックとしては認定NPO法人「西日本がん研究機構（WJOG）」が2007年から出版してきた「よくわかる肺がんQ&A」を公認するかたちで推奨してきました。私はこの「よくわかる肺がんQ&A」から編集に関わっていて、2007～2014年までの8年間で3回の改訂を重ねてきました。その後、肺がんの診断法、治療法が著しく進歩する中、日本肺癌学会が主体となって患者向けガイドブックを企画することになり、2019年に第1版の『患者さんのための肺がんガイドブック』を出版しました。

第1版から2年が経ち、この間に新たな分子標的薬が承認されたり、免疫チェックポイント阻害薬に関する研究データが蓄積されたりと、日進月歩の肺がん治療の現状に追いつくために改訂が必要となりました。第2版を出版するからには、第1版よりもさらに読みやすく、濃い内容にしたいと考え、前回よりも大人数のチームを組んで編集に取り組みました。



患者さんのための肺がんガイドブック第2版

——作成に関わったメンバー構成について教えてください。

企画から編集・発行まで、肺がん患者代表2人にも参加していただきました。三重県肺がん患者の会・大西幸次さん、特定非営利活動法人肺がん患者の会ワンステップ・長谷川一男さんです。説明文や図・イラストが患者さんやご家族にとって分かりやすいものとなっているか、疑問や不安を解消する内容になっているかという点を特に重視し、さまざまな意見を反映しました。書体や文字の大きさなど、細かい点にも患者さん側の意見を採用しています。

執筆には医師だけでなく薬剤師、看護師、ソーシャルワーカー、診療放射線技師、リハビリテーション技師など多職種のベテラン・中堅・若手メンバーに参加していただき、総合的な情報を網羅しています。日本肺癌学会の評議員のほか、全理事が紙面をチェックし、多くの修正を経て出版した力作です。また、情報の公正性を保つために、特定の団体との結びつきがない、または関係の少ないメンバーを選んでいて、紙面でCOI（利益相反）開示も行っています。ちなみに、作成委員は私を含めすべて手弁当です。関わってくださった皆様には感謝してもしきれません。

現在、私は日本肺癌学会の理事を務めているのですが定年を控えており、紙媒体の『患者さんのための肺がんガイドブック』に携わるのは今回が最後となります。だからこそ、集大成として今まで以上に気合を入れて編集しました。



2019年の初版完成時の編集委員（一部）

——作成においてこだわったポイントは。

WJOGが20年弱の間に開催した市民公開講座と、日本肺癌学会のPAP（パシエント・アドボカシー・プログラム）の3日間にわたるメインセッション「患者さんの質問にとことん答えます」に寄せられた患者さんの質問を集約し、肺がん治療の最新事情を交えてQ&A形式でまとめています。Qの項目数は第1版では120ほどあったものを、できる限りコンパクトにまとめて96にまで絞りました。

構成としては、パシエント・ジャーニー（患者さんが疾患や症状を認識したのち、治療するまでの行動、思考、感情などのプロセス）に沿って、検査、診断、治療、生活上のアドバイスという順序で並べています。一晩で読み切れる程度のボリュームなので肺がん治療の全体像が短時間でつかめますし、目次に並ぶ質問を見て自分にとって興味のあるところだけ拾い読みしていただくこともできます。

全ページカラーで分かりやすいイラストや図版を数多く掲載しました。金原出版さんに無理をお願いし、表紙にも紙面にも色あせしにくい上質な紙を使っています。採血などで少し血がついたとしてもすぐに拭き取れば汚れになり

ません。購入しやすい価格に抑えるとともに、全国の書店やWebで手軽に購入いただけるように手配しています。肺がんが診断されたその日に患者さんに手に取っていただき、マイブックとして生活に取り入れていただけたら幸いです。



岐阜市民病院

◆澤 祥幸（さわ・としゆき）氏

1984年岐阜大学医学部卒業。岐阜大学医学部附属病院を経て、大阪府立羽曳野病院（現大阪はびきの医療センター）で呼吸器学、特に肺がんを研修した後、1993年より岐阜市民病院呼吸科医長兼診療科長に就任。2006年、日本初のがん薬物療法専門医の1人となる。2002年より国際肺癌連盟（Global Lung Cancer Coalition）のボードメンバーとして活動。2011年より岐阜市民病院診療局長（がんセンター長）に就任（現職）。2014年より世界肺癌学会アドボカシー委員として国際的な肺がん患者支援活動にも参画するほか、日本肺癌学会理事・中部支部長を務める。

【取材・文＝加藤 由起子（写真は病院提供）】

記事検索

ニュース・医療維新を検索

